



いずみ

令和5年10月31日発行

<学校教育目標>
かしこい子
やさしい子
たくましい子



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

よりよい学校・学級づくり

生活指導主任 石橋 玉有

朝夕めっきり冷え込む時候となり、体調を崩す児童も多く見られます。寒い中でも和泉小学校では、学習発表会に向けて活気が溢れ、賑やかな日々を送っています。

11月頃になると学級では、決まったグループや集団が作られ、仲間への依存が出てきます。グループや集団ができることで、友達と支え合ったり、励まし合ったりして互いを認めながら成長することもあれば、逆に無意識に傷付けたり、悲しませたりすることもあり、いじめや不登校につながっていくこともあります。

令和4年度の東京都全体のいじめの認知件数は66,314件。(認知件数とは、学校がいじめであると判断した件数のこと。)令和3年度に比べると6,479件増加しています。また、不登校出現率は10年連続で増加傾向となっています。(※小学校の復帰率は上昇傾向にある。東京都教育委員会ホームページより)和泉小学校でも、いじめ問題や人間関係のトラブル、不登校など課題はあります。その中でもいじめは、一切許すことはできません。相手の行為により被害の子供が心身の苦痛を感じたものであれば、いじめと捉え、いじめ防止対策委員会を発足し、迅速に対応します。また、不登校についても児童に寄り添い、問題や原因を発見・解決するとともに、外部の関係機関と連携しながらよりよく復帰できるよう支援します。

さて、11月は「ふれあい月間」です。ふれあい月間では、いじめ問題や人権問題、よりよい友達づくりや学級づくりなどについて考えます。全学級で「みんながよりよく学校生活を送れるためにはどうしたらよいか。」「いじめはなぜいけないのか。」「居心地をよくするためにはどうしたらよいか。」をじっくり考え、自分を見つめ直します。

学校でのトラブルやもめ事は、対人関係が殆どです。自分の期待通りにならない他者の考えや行動に大きなギャップを感じ、ストレスが生じます。無意識に自分と同じ感覚を求めてしまうことは誰もがもっている感覚だと思います。学習を通して、自分がされて嫌なことや相手の立場に立って考えることで自己理解や他者理解を高め、対人関係がよりよくなる心情や態度が育ってほしいと思います。

11月のふれあい月間では、6月にも行った「心のアンケート」を再度実施し、子供たちの居心地のよさを把握し、いじめの未然防止・早期発見につなげます。その他にも、人権に関する道徳の授業を行い、人権感覚を育てます。また、子供たちだけではなく教職員もいじめや不登校に関する研修を実施し、未然防止力・早期発見力・早期対応力を向上させていきます。

今後も子供たちの思いを大切にしながら、一人一人の居場所をつくり、よりよい学校生活を送れるように全職員で見守っていきます。

11月の生活目標

話をしっかり聞こう

- 相手の目を見て話を聞く
- 相手の話を最後まで聞く

11月の安全指導

安全な生活「いかのおすし」

- 「いかのおすし」の指導
 - いか→行かない の →乗らない
 - お →大声を出す す →すぐに逃げる
 - し →知らせる
- ぜひご家庭でも自分を守るための行動について話し合ってください。